

先進性・独自性のある教育プログラムを開発し、地域指導者に提供

Honda は、様々な年代や社会のニーズに合わせた新たなソフトウェアの開発を推進しています。そして、先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などの普及拡大にも努めています。



「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編」

危険予測を題材とした 小学校低学年向けプログラムを開発

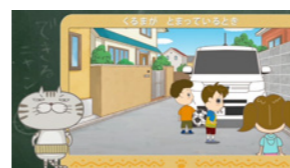
日本での歩行中の交通事故死傷者数を年齢別にみると、7歳児が突出しています。そこで昨年開発した幼児向け交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」の続編となる「小学校低学年歩行編」を完成させました。開発にあたっては幼児向け同様、交通安全指導者の意見を反映させ、効果的な普及につながるものをめざしました。その内容はアニメーションを活用した対話型のプログラ

ムで、指導者からの一方的な指導ではなく、児童に「どうして危ないのか」を考えさせ、気づきを促し、双方向で答えを導き出す点が特徴です。映像編では、他者視点をわかりやすく伝えるために「上空からの見え方」や「運転者からの見え方」などをアニメーションとして取り入れています。また、体験編として、児童に道路横断時の安全確認を学んでもらう内容も組み込まれています。



アニメーション映像のDVDと映像指導と体験指導のマニュアルを収録したCD

映像編



危険な場面



異なる視点



安全のポイント



ポイントとなる場面で映像を止めて、道路状況に潜む危険や安全な歩き方を児童に問いかける

体験編



ボールをクルマに見立て、道路横断時に大切な「止まる」「観る」「待つ」を体験する

交通安全指導者の知識と経験を 新たな教育プログラムの開発に活かす

Honda は、交通安全指導者の方々の経験を新たな教育プログラムの開発に活かすと共に、相互の指導方法の確認や意見交換を通じて指導力の向上に役立ててもらうための交通安全教育プログラム勉強会を定期的に開催しています。今年は埼玉県、愛知県、熊本県の3ヶ所で開催し、39都道府県から135名の方々に参加いただき、現状の困り事について情報共有すると共に、課題を解決するためのアイデアを出し合い、プログラム開発に反映しています。



交通安全教育プログラム勉強会